



真生会富山病院

地域連携だより

第8号

2014年11月発行

〒939-0243

富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156

FAX 0766-52-2197

<http://www.shinseikai.jp/>



「看護情報の共有をはかり、安全な看護管理体制の確立」をめざして



看護部長 加藤^{あや}礼

【入院の現状】

当院は19時まで夕方外来の受付をしております。夜間入院の90%は17時から24時までの時間帯になされ、その中でも82%は19時から24時までに行われています。夜間入院の40%の患者さんが重症度、医療・看護必要度の基準を満たしています。

【今後の展望】

高岡医療圏における地域密着型病院としての役割を果たすことを目的としているのが当院です。しかし、ベッド数が少ないための満床、マンパワーの不足、医療安全上の困難など、種々の課題があり、十分な対応ができない状況でした。

そこで、病院全体で検討を重ね、右の表のように新体制を構築しました。診療科別から、「病期（病状の経過）」別の病棟に変更し、10月14日より業務を開始いたしました。これにより入院が必要と判断された患者さんを速やかに、適切に受け入れ、かつ安全で安心できる看護管理体制となりました。

新体制の特徴は、緊急入院への速やかな対応と夜間帯のマンパワーの充足です。夜間の看護師を常時1名増員し、看護補助者の夜勤も導入しました。

真生会看護部が大切にしていることは、「またお世話になりたいと思われる看護」。患者の皆様が「真生会に入院してよかった、入院するなら真生会」と思っただけの看護をお届けすることです。

今回の機能的な組織体制の整備で、さらなる自利利他の理念の実現をめざします。今後とも地域医療に貢献できるよう、他の医療関係の皆様と連携をはかってまいります。なにとぞよろしくごお願い申し上げます。

わかば病棟 (本館3階)	さくら病棟 (本館4階)	あやめ病棟 (南館3階)
44床	35床	20床
[重症病棟] 緊急に入院治療が必要であり、症状・兆候の発現が急激で、全身管理を必要とする時期の患者	[中～軽症病棟] ○生命の危機的状態から脱し、症状が安定に向かっている患者 ○機能障害の程度に応じた日常生活に適応を促す時期の患者	[眼科病棟]

第3回健康セミナー開催

9月27日(土)、アイザック小杉文化ホール ラポール(まどかホール)にて、第3回健康セミナーを開催いたしました。テーマは「笑顔になれる♪お肌の健康」と題して、皮膚科の花川博義医師がアトピー性皮膚炎と美肌について講演。また、初の試みとしてパネルディスカッションを行い、参加者の方からも多くの質問をいただきました。

花川医師と、パネルディスカッションのパネラーを務めた皮膚科スタッフの松田看護師、関口看護助手の感想を紹介します。

【花川医師】

お肌の健康を通して皆さんに笑顔になっていただくこと、これが皮膚科医の役割だと思います。パート1のテーマ、「アトピー性皮膚炎」は今日、難病のイメージをもたれる方も多く、治療も一部混乱しています。アトピー性皮膚炎の重要かつ根本的な原因は乾燥肌の体質(バリア機能の異常)です。保湿剤を含めた塗り薬の治療で必ず克服できるというメッセージをお伝えしました。

パート2は「美肌」。女性はもちろん、最近は男性にも興味が高い分野であり、週刊誌を始め、ネットにもアンチエイジング(老化防止)の文字が舞っています。

世界三大美人の一人、小野小町の有名な歌があります。

「面影の変わらで年のつもれかし たとい命に限りあるとも」

(今の美貌が変わらないでほしい、年をとることがあっても、たとえ命に限りがあろうとも)



アンチエイジングの基本は1に運動(1日30分のウォーキング、スロースクワットなど)、2に食事(野菜、魚、大豆、果物、肉、お茶)。その他、洗顔と化粧の3原則(こすらない、もまない、たたかない)、子どもの頃からの紫外線対策(日焼け止め、帽子など)が大切です。

べっぴんさんのことを〇〇小町と言うのは小野小町に由来しているようですが、「射水小町」、「富山小町」を目指して、今後もサポートしてゆきたいと思います。

【松田看護師】

リハーサルをしていたものの、緊張して、関口さんと舞台裏で励まし合っていました。花川先生は壇上に立つことに慣れておられますが、私は人前に出るのは本当に苦手です。一緒にパネリストを務めたパーソナリティーの水上さんや来場者代表の島田さん



に引っ張ってもらいました。本番では想定していない質問が飛び出し、頭で思っていることと全然違うことは口で言っているような状態で、内心ヒヤヒヤものでした。しかし、観客席に上司や職員の顔を見つけてホッと安心している自分もいました。終わってみると、あれも言えばよかった、こんなことも伝えたかったと後悔もあります。関口さんをはじめ、一緒に準備してきた職員とは、同じ修羅場(?)をくぐった同士のような気持ちが芽生えました。やり遂げた自分に、「よく頑張った」との思いもあり、貴重な体験をさせて頂いたと思っています。

皮膚科は奥が深く、毎日が勉強です。外来では長い時間、患者さんをお待たせしてしまうこともあります。先生に聞けないことを看護師が代わりに聞き、橋渡し役となれるよう頑張りたいと思います。

【関口看護助手】

今回、パネルディスカッションという初めての試みで、どんな流れになるのか、どんな質問をされるのかと不安でした。当日まで右往左往していましたが、アトピー性皮膚炎やスキンケアについて、改めて学び直す機会となりました。私が今まで、皮膚科の勤務で得たことを話すことができ良かったと思います。会場が温かい雰囲気でしたし、歌あり笑いありと皮膚科らしさ満載で、緊張が吹き飛ぶくらい楽しかったです。



来場者の声

- ・花川先生の講演は、おもしろいのでまた聞きたいと思う。
- ・病院の講演会だからきっと難しい、堅苦しいだろうと、とにかく行ってみようとして出席させて頂いたら本当に楽しく、わかりやすくお聞きしました。花川先生のお話もわかり、よいスライド、ユニークで大変勉強になりました。字なども難しくなく、大きくて年輩者にとっては良かったです。
- ・花川先生の歌が良かったです。とてもわかりやすく勉強になりました。パネルディスカッションも良かったですと思います。
- ・患者としてお世話になっています。今日、お話を聞いて、先生のイメージが変わりました。これからも先生について行きます。
- ・タバコの喫煙によるシワについて全然知りませんでした。現在、多くシワがあるのは45年も吸い続けたからでしょうね。
- ・アトピーについてももう少し突っ込んだ話があるかと思って来ましたが診察を受けなければ相談できないことがわかりました。



地域医療部より

平成 26 年 6 月 3 日に開催した「第 3 回地域連携交流会」において、参加されたケアマネジャーの皆様からいただいた質問にお答えいたします。

Q 1 担当の看護師が不在の時には、患者の状況は聞けないのでしょうか。それとも、代理の人から教えてもらえますか。

(回答) 交代勤務のため担当看護師が不在のこともありますが、その日に勤務している看護師が対応いたします。ご相談ください。

Q 2 退院する患者の連絡が直前にケアマネジャーにあり、準備がすぐにできません。もっと余裕をもって連絡してもらえないでしょうか。

(回答) 急に退院が決まることもあり、ケアマネジャーの皆様にはご苦労をおかけして申し訳ありません。退院支援が円滑にできるように努めてまいります。患者さんの中には（特に終末期の方の場合は）、自宅で過ごせる限られたタイミングがあり、その時期を逸すると自宅に帰れないまま最期を迎えなければなりません。ご本人、ご家族の希望を尊重しての急な退院もやむを得ない場合があります。必要に応じて退院前カンファレンスを開きますので、どのような退院準備があれば、安心して在宅療養ができるのか、お知らせいただくと助かります。

Q 3 ケアプランなどの書類はどこに持っていけばよいでしょうか。

(回答) 主治医宛に郵送をお願いいたします。もしくは、地域医療連携室までお持ち下さい。

第 3 回地域連携交流会は、心療内科の明橋医師の医学講座と、医師を交えての退院支援などをテーマにしたグループワークを行いました。今後も年に 1 回開催の予定です。射水市内のケアマネジャーの皆様と交流を図り、地域の方々の健康をサポートしてまいります。

